

2024年11月22～23日に「第40回日本糖尿病・妊娠学会年次学術集会」が埼玉県さいたま市で、2025年1月24～25日に「第59回糖尿病学の進歩」が沖縄県那覇市で開催されました。



学会ってたくさんあるんです。主任部長が必ず現地で参加するのは3月の日本内科学会近畿地方会、5月の日本糖尿病学会年次学術集会と11月の日本糖尿病学会近畿地方会の3つ。これに加えて上記2つの学会と、本当は行きたい「日本先進糖尿病治療・1型糖尿病研究会」で6つ。全部現地で参加していたら、日常の業務に大幅な影響が出てしまいます。でもコロナ前は現地参加しか方法がなかったので、みんな何とか仕事をやりくりして、日本全国どこで開催されようとも、何時間もかけてはるばる出かけていきました。それが当たり前だったんです。それ以外の方法があるかも？なんて考えもしなかったんです。

ところがコロナ禍以降、現地での学会参加に加えて、オンラインでの学会参加

という選択肢が生まれました。学会の特別講演がライブ配信される時もありますが、多くは会期が終了した2~3週間後から期間限定（1か月程度）で、特別講演や教育講演をオンデマンド配信で見ることができます。これが大変便利なんです！週末に自宅のリビングでオンデマンド配信をクリックすると、そこは「学会会場」に大変身。メモを取りたいときなど好きな時に一時停止できるし、分からない時は何度でも再生できます。聞きたい講演が同時間の別会場、なんてことを心配する必要もありません。自分のペースで学ぶことができます。主任部長は、煮込み料理を鍋にかけてから1時間ほどゆっくり見ます。すぐ隣では、三女がソファに寝転がってNetflixをだらだら見ている（笑）。

オンラインで学会参加できる様になってから、学会に“子供連れてく問題”、学会会場の“託児所ない問題”が解決しました。主任部長も、長女と次女が小さい頃は、学会に行くことを考えただけで気が遠くなるくらい大変でした。学会に参加して最新の知識を得たいけれど、子供の面倒を見てくれる人がいなくて学会へ行くのを断念したことがありました。応募した演題が栄えある口演（oral presentation と言います）に選ばれたのに、つわりがひどくて移動に耐えられず、辞退せざるを得なかった時は本当に無念でした。決死の思いで数日ばかりで準備して、子供も子供の荷物も全部抱えて遠方の学会まで出かけて行って、学会会場の椅子に座ったところで疲れ果てて寝ちゃったことも…。本当に何しに行っ

たんやろう…と自己嫌悪でした。ですのでママ女医さんにとって、オンラインで学会に参加し、最新の知見が手軽に学べる近年の環境は、本当にありがたいの一言です。

ですが、そんなオンラインでの学会参加の利点を十二分にわかったうえで、やっぱり現地で学会に参加するのは、何物にも代えがたい素晴らしさがあることを皆様にお伝えしたいと思います。何物にも代えがたい素晴らしさ、それは“情熱”です。「もっと良い治療を患者さんに届けるために」「糖尿病研究をもっと前進させるために」日々努力を重ねておられる一流の先生方が登壇され、強い信念に基づいた努力の軌跡（研究結果）を、確信に満ちた言葉で我々に伝えて下さいます。このスライド一枚を世の中に出すために、どんなに努力しはったんやろう（大学院で臨床研究をかじっただけの主任部長ですが、研究の価値・その大変さは身に染みて知っています。）そんな思いで主任部長はスライドを見つめていると、心がじ～んとします。よし、私も明日から頑張ろう！そんな熱い思いを分けてもらえる、それが学会の現地参加です。そして以前一緒に働いていた仲間にはったり出会って情報交換したり、思いがけず昔の同僚のその後の活躍を聞くことが出来たりして、「みんな頑張ってるねんな、凄いな。私も頑張らな。」そんな気にもさせられるのが、やはり現地参加の醍醐味だと思います。

学会のオンライン参加と現地参加、今やどちらもなくてはならないツールに

なってきました。今回はオンライン参加、次回は現地参加。そんな風に自分の生活や用途に合わせて選べる世の中になってきたのが本当に嬉しいです。主任部長、忙しい毎日が続きますが、これからも患者さんのために、そして学びたい専攻医さんやメディカルスタッフを指導するために、コツコツ勉強を続けていきたいと思います。



現地（福岡）で学会参加した時のお写真です。学会終了後に福岡タワーを訪れました。

福岡タワーは全長 234m、日本一の海浜タワーです。マスコットキャラクターの FUTA (FUKUOKA TOWER) 君と 2ショット頂きました！

現地参加には、開催都市を旅する楽しみもありますね。